

山形大学

校友会 会報

YAMAGATA UNIVERSITY KOYUKAI



ご挨拶

山形大学校友会会長 結城 章夫
(山形大学長)



山形大学（以下「本学」という。）は、旧制の山形高等学校、山形師範学校、山形青年師範学校、米沢工業専門学校及び山形県立農林専門学校を母体として、昭和24年5月の創設以来、関係者のご理解とご協力を得て、時代の要請に応えながら着実にその歩を進めて参りました。現在は、6学部・6大学院研究科に9,200人の学生が学ぶ東北地方有数の総合国立大学となっており、これまで、本学が社会に輩出した多くの卒業生は、在学中に習得したその知識と経験を活かして、社会の様々な分野で活躍をしています。

現在、本学では、「学生教育を中心とする大学創り」を基本理念の一つに掲げており、何よりも学生を大切にし、学生が主体的に学ぶ活気のある大学を目指して、様々な取り組みを行っております。そして、卒業生から「山形大学で学んで本当に良かった。」と言ってもらえることが、全ての教職員の願いであります。

山形大学校友会は、そのような本学の様々な活動を支援する組織として、平成18年12月に、本学の学生や卒業生をはじめ、役員、

教職員（退職者を含む。）及び山形大学校友会の趣旨にご賛同をいただいた方々を会員として設立されました。本会は、本学の発展に寄与するため、学生の健全な成長及び分散キャンパスの一体感を醸成する活動等の支援を目的として、以下のような事業を行っています。

- 学生の修学、課外活動及び就職支援
- 本学と保護者との連携
- 本学運営への支援
- 同窓会等への支援
- 会員相互の親交

つきましては、会員各位の皆様におかれましては、引き続き、本会へのご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

また、本会の趣旨にご賛同いただけます方は、いつでも入会を歓迎いたしますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

平成 24 年度事業

平成24年度において実施した校友会支援事業のうち主なものについて次のとおり紹介します。

海外留学への支援

大学間交流協定大学への短期派遣留学生支援

山形大学短期留学生派遣制度により協定大学に留学した学生のうち、ニューヨーク州立大学コブスギル農業技術大学、テキサス大学アーリントン校、コロラド州立大学（以上、アメリカ）、北京林業大学（中国）、銘傳大学（台湾）、大邱大学校（韓国）、サ

ンアンドレス大学（ボリビア）、ラトビア大学（ラトビア）に留学した9名（人文6、地教2、理1）に支援金を贈呈し、異文化理解やコミュニケーション能力の向上が図られました。

成績優秀な学生に対する留学支援

イギリス、アメリカ、カナダ、台湾、スイス、タイ、ニュージーランド、ギリシャ、オーストラリアにおける5学部24名（人文3、地教4、理4、医10、工3）の学生を支援し語学力向上や異文化理解が図られました。

「大学間交流協定大学への派遣留学生」支援金贈呈式

平成 25 年 7 月 16 日に、山形大学短期留学生派遣制度により海外の協定大学に留学する学生への支援金贈呈式を行いました。

贈呈式では、校友会会長である結城章夫学長から、出席した学生一人一人に目録が手渡された後、酒井順一校友会副会長と小山副学長から激励の言葉をいただきました。

また、派遣学生の皆さんからは一人一人支援に対する感謝の

気持ちと留学にあたっての決意のこめられた力強い挨拶がありました。

皆さんの健康と留学が素晴らしい経験となることをお祈りいたします！



課外活動への支援

公認サークルへの支援

全国大会等に出場した陸上競技部、空手道部、女子バスケットボール部、小白川ピリヤードサークル、剣道部、女子サッカー部、鶴岡ピリヤードサークルの7団体



女子サッカー部

（延べ10大会）に遠征費等を支援するとともに、プールコースロープ、防球ネット等、サークル活動のための用具の購入を支援しました。

大学祭等、学部を超えた学生の交流活動への支援

キャンパス間シャトルバスの運行や校友会の広告掲載等、各キャンパスの大学祭に対しての支援を行いました。大学祭は次のとおり開催されました。

小白川キャンパス：

八峰祭10月20日～21日。

米沢キャンパス：

吾妻祭10月6日～8日。

鶴岡キャンパス：

鶴寿祭11月24日～25日。



山形大学雪合戦大会への支援



2月10日（日）に工学部グラウンドにおいて第4回大会を開催し、15チーム（小白川5（職員チーム2を含む）、米沢8、鶴岡2）の延べ約160人が参加し、工学部からの出場チームが優勝を飾りました。今回は米沢地区のみ参加申し込み多数（15チーム）のため1月26日（土）に予選大会（当日は悪天候のため代替のドッジボール大会）を実施しました。

ビーチサッカー大会 in 庄内への支援

10月13日（土）に11チーム約100名の学生（人文学部・地域教育文化学部・理学部・工学部・農学部）が参加して大会を開催しました。天候不良のため由良海岸での実施を見送り、農学部体育館を利用しての開催となりましたが、当初の目的（学部間の交流、山形食文化の伝播）は達成しました。工学部からの出場チームが優勝を飾りました。



山形大学野球大会への支援



8チームが参加して、10月17日及び10月19日に工学部グラウンドで予選リーグ、10月22日（月）に米沢市営野球場で決勝トーナメントを実施し、工学部からの出場チームが優勝を飾りました。

就職活動支援

学生中心に行う首都圏での企業訪問への支援

11月にキャリアサポーターが首都圏を含む企業(11社)を訪問し、企業に勤務する山形大学の先輩や採用担当者の話を伺うことによって実際の就職活動に必要な事を学びました。



企業訪問後には「企業訪問報告書2013(あなたと企業をつなぐ広報誌 C and S)」を作成し後輩学生に提供しています。

「業界研究セミナー」並びに「OB・OGフォーラム」支援

11月10日に「OB・OGフォーラム」を開催し27名のOB・OGに参加頂き、在学生との懇談等を実施しました。また、適正テスト「R-CAP」は115名の学生が受験しました。



首都圏開催合同企業説明会への参加と東京サテライト案内

12月21から22日にかけて52名の学生が東京サテライト紹介及び合同企業説明会「ブンナビ就職ライブ!! 2014企業研究編」に参加しました。校友会からは参加のためのバス借り上げ代等の支援を行いました。



大学・社会活動への支援

東日本大震災復興支援ボランティア派遣事業支援

山形大学の各部局のボランティア派遣事業担当者に校友会事業



震災復興・防災・減災に関するワークショップ

について説明の上、「科学で東北を盛り上げ隊!@石巻」及び「震災復興・防災・減災に関するワークショップ」の2団体に対してバス借り上げ代を支援しました。

科学で山形盛り上げ隊への支援

震災ボランティア関係でいわき市立豊間小・中学校など県内外10カ所で科学実験イベントを実施し、校友会からは学生・教職員移動のために大型バス借上代や消耗品を支援しました。



会員相互の親交を図る事業

卒業生などによる学生支援体制の整備

・各同窓会本部及び各支部の総会に参加(12ヶ所)し、校友会に

ついて広報を行うとともに卒業生と情報交換を行いました。

- ・平成24年12月22日に東京サテライトにおいて、各同窓会東京(関東)支部関係者との情報交換会を実施しました。
- ・平成25年3月2日に「山形大学OBセミナー」を東京サテライトとの共同で開催しました。

山形大学各同窓会東京(関東)支部と山形大学校友会との情報交換会

校友会と各同窓会との協力関係の一層の強化を図るため、平成24年12月22日(土)に、キャンパス・イノベーション・センター(東京都港区芝浦)を会場に開催し、若い卒業生の同窓会加入者を増やすことや名簿管理の重要性、その中で校友会の役割等について様々なご意見をいただきました。

この情報交換会には、東京ふすま会、地域教育文化学部同窓会東京支部、米沢工業会東京、千葉、神奈川の各支部、鶴窓会関東支部から18名の皆様にご出席いただきました。



大学間交流協定大学への 短期派遣留学生支援

人文学部（4年）堀川 啓太さん

留学先：アメリカ・ニューヨーク州立大学コブルスギル農業技術大学
期間：2012年8月～2013年5月

私は昨年8月から今年5月までの約10か月間、アメリカ、ニューヨーク州のコブルスギルで勉強しました。そこでは英語を話せるようになることは勿論のこと、様々な文化や価値観を知り、また理解し合うことに努めました。そういう意味で、今回のアメリカへの留学は大きく自分の人生に影響を与えた10か月でした。

しかし、最初は留学が自分で志望したにも関わらず、不安でいっぱいでした。誰も知らない、分からないことが多く、言葉も正確には通じない土地へ行くことがとても不安でした。大学でも英語の授業なんてついていけるのだろうかとか多くの心配事がありました。しかし、それらは実際にはどうにでもなるものでした。そんな不安はどこへやら、毎週末サッカー、その後のパーティーで色々な国籍の人と騒いで、笑い合いました。このようなことは留学前の自分には想像できなかったと思います。

また、アメリカ人だけではなく、アジアやイスラム圏からの留学生とも沢山知り合うことができました。彼らとはよく街に遊びに行ったり、多くの行事と一緒に参加したりしました。楽しい時間を過ごすことは世界中の人が共有できるものと感じました。また彼らの中には帰国後、レストランを自分の国で開



▲ 左から2人目が筆者

くために英語を勉強しつつ料理を学んでいるといった学生もいれば、まだ新興国である自分の国を引っ張っていきんだ、自分たちが国を作り上げていきんだ、というような強い主体性が感じ取れる学生もいました。

10か月の留学を通じて、英語は話せるようになりましたし、他人を理解し抱擁する力も身に付けることができました。また特に、色々な文化、価値観の人たちと会うことで、自分という人間を改めて見つめ直すこともできました。大学4年次からのこの留学をモラトリアムとして活用できたし、自分自身を一回りでも成長させることができました。改めて、支えてくれた友達、家族、留学支援担当の皆さん、校友会の皆さんに感謝したいと思います。ありがとうございました。



成績優秀者への留学支援

地域教育文化学部（2年）小林 詩さん

留学先：カナダ 期間 2013年3月10日～3月24日

国際色豊かな都市、トロント。韓国、中国などのアジアや南米など世界中の人々が暮らす都市でした。

私は2週間語学学校に通いました。私のクラスは11人のにぎやかなクラスでした。国籍は韓国が5人、サウジアラビアが3人、メキシコ、ブラジル、日本がそれぞれ1人ずつでした。この2週間で強く感じたことは英語を口にする頻度が高い人は他の人と比べて英語の表現力が豊かであるということでした。クラスに冗談をよく言う韓国人がいました。授業で習った文法事項をすぐに会話に混ぜ、他の学生も会話にどんどん使っていました。使い方が不安なときはすぐに“teacher!”と、先生に聞いていました。文法の授業は黙々と先生がいうことを板書する授業だと思っていました。しかし、どちらかというとスピーキングとリスニングの授業という印象でした。学んだことをすぐに使う、このサイクルでした。会話することでクラスの仲も深まり、時にはお互いの国、文化、宗教、生活などについても話しました。私は英語もそれぞれの世界観も学んだ2週間だったと感じています。特に、高校の授業で習ったイスラム教を母国者から直接聞くことができ、新鮮でした。授業では習わなかったイスラム教の奥深さを知ることができました。同時に日本が



▲ 後列左から2人目が筆者

他国からどういう印象があるのか、どう思われているのか、ということも知る機会になりました。

今回の短期研修で感じたこと

は今まで頭に詰め込んできた文法事項が本当は頭に入っていなかった、ということでした。大学入学のための道具としての英語でしかなく、使える英語ではなかったということに気づきました。今後は英語を学び、使う、というサイクルで英語を自分のものにしていきたいです。facebookやskypeなどの便利な通信機能を駆使して海外の友達と英語でチャット、会話をしていきたいです。

今回の研修は良い経験になり、英語を学ぶ意欲をかきたてる機会となりました。ご支援ありがとうございました。



各同窓会の紹介

地域教育文化学部同窓会

地域教育文化学部同窓会は、明治19年山形県師範学校「山形同窓会」として発足いたしました。以来多くの変遷を経てまいりましたが、平成24年度末現在、卒業生3万2千名、現存する同窓生は2万2千名を超えております。同窓会が師範学校、教育学部を前身としていることから、主に教育界を中心に県内外において、中核的役割を担って活躍している多くの同窓生がおります。

同窓会は同窓生相互の親睦を図るとともに教育研究の活性化の支援、教育文化の充実・振興にむけた活動などを目的としております。

卒業後50年、30年の同窓生を招待して行う母校創立記念祝賀式典は、同窓会最大の行事であり、昨年は母校創立134周年記念として盛大な式典となりました。

また、5年ぶりに「同窓生名簿」を発刊いたしました。会報「教友」の発行は53回をかぞえます。同窓生の交流、情報交換、研修の場として活用いただいております。

同窓会が母体となって設立し、運営している「教友会」も一般財団法人として認可を受け、平成24年4月から新たな一歩をふみ出しました。学部への研究助成、支部活動支援として研究助成、会報「教友」の発行、講演会等の補助など公益目的事業を重視した活動を行っております。



教育資料館（旧山形師範学校本館）

「教友会」には、県内15支部、県外7支部（主に東日本）があり、それぞれ独自に工夫をこらした活動を行っております。地域の教育力向上を目指した研究、研修推進、若手育成指導、叙勲など各種受賞者への祝賀事業などを積極的に行っております。

母校は、同窓生にとって忘れ得ない心のふるさとであり、心の絆であります。大きな心の支えとなるものでもあります。

これらの同窓生の思いを大切にしながら、今後とも活動を展開し、母校の発展と会の充実のために努めて参ります。

（会長 酒井 順一）

鶴窓会

「鶴窓会」が発足したのは昭和25年3月の農林専門学校第一回卒業式時のことで、県立農林専門学校、山形大学農学部並びに大学院農学研究科出身者の同窓会組織であった。当時は初代会長を石川初代校長にいただいた経過があるなど会則の変則や「鶴窓会」の歴史として本部より支部独自活動が活発であったことが記録として残っています。

その後、昭和54年山形大学農学部創立30周年記念事業を経て、昭和55年発足の「農学科の会」など幾多の変遷を経て、現在の組織体制となって本年19年目に入ります。平成7年3月に「鶴窓会だより」の名称で創刊号を発行し、平成25年12月に「鶴窓会だより」

20号を発行しようとしています。

その間、毎年の事業、イベントのほか、平成9年の農学部創立50周年記念事業に大々的に協賛そして平成24年には5年毎の会員名簿「65年の歩み」を発刊して現在に至っております。会



員は8000名余を数えており、全国にその活躍の場を広げています。

現在、「鶴窓会」の支部組織は8支部まで発展しており、遠く関東、関西支部、北海道支部などの各支部独自活動に加え会員のネットワークづくりへの本部の貢献をホームページのリニューアルをとおして行っております。支部支援活動として、福島県支部の立ち上げが課題となっていますが、立ち上げの同窓の会員（福島県庁）が東日本大震災対応に多忙を極めている状態で計画通り進んでいないのが現状です。

平成24年には校友会主催の全学イベントに鶴窓会からビーチサッカーを提案し採択され、残念ながら屋内実施となったが農学部とともにその開催の事務局として参画出来たこと、さらに秋の学園祭（鶴寿祭）には同窓会員及び企業製品の即売会を企画するなど初の試みながら学生と接点を持つことができました。

最後に写真の石碑には昭和22年4月山形県立農林専門学校第一回入学式での石川校長の式辞が刻まれていることを紹介します。

その一部として“諸君の勉学を待つ設備整わず、農場、林野亦整備されておらず、図書も多くない。是等はすべて諸君の打ち振る鋏、打ちおろす斧を待っている。諸君と職員の総努力により整備されて行くものであることを忘れてはならぬ”と記されています。

（会長 佐藤 晨一）

山形大学OBセミナー

毎年恒例となっている山形大学OBセミナーが平成25年3月2日（土）に、キャンパス・イノベーションセンター（東京都港区芝浦）を会場に開催されました。

今回から、山形大学校友会が東京サテライトと共同しての開催となり、約100名の首都圏在住の同窓生の皆さまにご参加いただきました。

結城章夫学長の山形大学の現況を含めた挨拶の後、人文学部教授であり、ペルー共和国ナスカ市内に開所した人文学部附属ナスカ研究所副所長でもある坂井正人先生による講演が行われました。



引き続き行われた交流会では和やかな雰囲気の中、同窓生と本学関係者が交流を深めました。



校友会事務局から

24年度収支報告

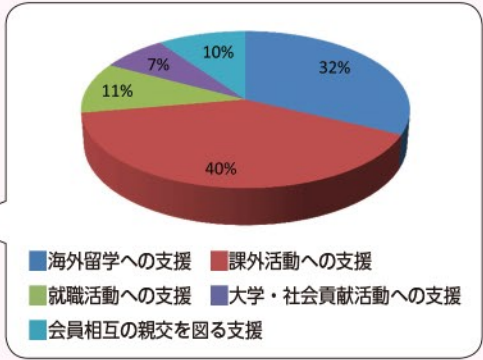
1. 収入

区 分	決算額 (円)
会費収入	18,920,000
雑 収 入	43,610
合 計	18,963,610

2. 支出

区 分	決算額 (円)
事 業 費	16,650,353
運 営 費	2,041,669
合 計	18,692,022

(25年度へ繰越：271,588)



平成25年度事業計画

1. 理事会の開催

第14回：平成25年6月11日

議題：平成24年度事業報告及び収支決算

平成25年度事業計画及び収支予算 等

(主な審議内容)

今年度の事業として次の20事業を決定しました。

- ① 山形大学雪合戦大会支援
- ② ビーチサッカー大会 in 庄内
- ③ 学生中心に行う優良企業訪問への支援
- ④ 「業界研究セミナー」並びに「OB・OGフォーラム」支援
- ⑤ 首都圏開催合同企業説明会と東京サテライト案内
- ⑥ 科学で山形盛り上げ隊への支援
- ⑦ 大学歌の普及活動支援
- ⑧ 東日本大震災復興ボランティア派遣事業支援
- ⑨ 卒業生等による学生支援体制の整備
- ⑩ 大学間交流協定大学への短期派遣留学生支援事業

- ⑪ 学術交流協定校への超短期学生派遣プログラム
- ⑫ 各キャンパス大学祭への支援
- ⑬ 公認サークルへの支援
- ⑭ 山形大学専用シャトルバスの運行事業
- ⑮ グローバル化に対応するための修学支援「国際理解のためのサマースクール」
- ⑯ 音楽芸術コース企画による講習会及び模範演奏会
- ⑰ 博士課程学生研究発表奨励事業
- ⑱ グローバル化に対応するための就学支援「国際理解のためのサマースクール」
- ⑲ 新入生保護者の皆様と山形大学との交流会
- ⑳ 山形大学卒業生講演会の開催
- 2. 会報 (No. 3) の発行
昨年に引き続き、会報 (No. 3) を9月に発行します。
- 3. 「各同窓会及び校友会と山形大学との情報交換会」の開催
期日：平成26年2月14日

役員紹介

(平成25年7月1日現在)

役 職	氏 名	推薦部局等	役 職	氏 名	推薦部局等
会 長	結 城 章 夫	山形大学長	理 事	結 城 經 治	社団法人米沢工業会 (工)
副会長	酒 井 順 一	地域教育文化学部同窓会	"	齋 藤 博 行	鶴窓会 (農)
"	阿 部 宏 慈	人文学部副学部長	"	小 山 清 人	山形大学 理事
理 事	佐 藤 直 之	人文学部後援会	"	須 賀 一 好	地域教育文化学部
"	高 橋 浩 一	地域教育文化学部後援会	"	栗 山 恭 直	理学部
"	丹 野 憲 昭	理学部後援会	"	山 川 光 徳	医学部
"	阿 部 信 行	医学部医学科後援会	"	神 戸 士 郎	工学部
"	秋 田 雅 人	医学部看護学科後援会	"	角 田 憲 一	農学部
"	上 村 勘 二	工学部後援会	"	石 井 滋	事務職員
"	佐々木 優 心	農学部後援会	"	岩 城 功 希	学長推薦
"	長 沼 龍 平	ふすま同窓会 (人文・理)	監 事	丸 山 俊 明	
"	加 藤 丈 夫	蔵王会 (医・医学科)	"	寒 河 江 良 三	
"	佐 藤 和 佳 子	樹水会 (医・看護学科)			

山形大学校友会会則の一部改正について

(改正の主旨)

学生支援に力点を置いたこれまでの事業内容に加え、卒業生への支援充実を図り、山形大学の発展に寄与するとともに、山形大学コミュニティの醸成・強化を図るため、所要の改正を行いました。(平成25年4月1日施行)

(主な改正のポイント)

- ①目的 (会則第3条)
より目的を明確にするため、「山形大学の発展に寄与」と「山形大学コミュニティの醸成・強化に資する」ことを目的に加えた。
- ②事業 (会則第4条)
目的の改正に伴い、「本学に対する支援事業」と「同窓会等に対する支援事業」等を事業に加えた。
- ③学部同窓会及び後援会の位置付け (会則第6条・8条の新設)

「賛助会員」を会則上明記し、緩やかな連合体とする。

- 学部同窓会、後援会以外にも、同期会、クラス・ゼミ会、サークル会、同窓会支部、職員OB会など、本学に関係する者が、一定の目的の下で活動する団体を、理事会が認めた場合に限り、「賛助会員」へ加えることができるものとする。(ただし、特に団体会費の規定は設けず、個人会員の加入促進を図る。)
- ④役員の選任 (会則第13条)
山形大学との一体感を強調するため、会長は理事の互選方式から「本学の学長」へ変更した。
- ⑤事務 (会則第18条)
事務局機能を大学 (EM部) に一元化し、「事務局」を会則上明記した。
- ⑥その他 (会則第5条の新設)
遠隔地 (東京、大阪等) への活動強化を図るため「支部規定」を明記した。

山形大学校友会会則(平成25年4月1日改正)

(名称)

第1条 本会は、山形大学校友会と称する。

(所在地)

第2条 本会は、事務所を山形市小白川町山形大学内に置く。

(目的)

第3条 本会は、山形大学(以下「本学」という。)の発展に寄与するため、学生の学業及び課外活動等への助成並びに全学的なキャンパス間の交流活動に支援を行うとともに、会員相互の親交を図り、「山形大学コミュニティ」の醸成・強化に資することを目的とする。

(事業)

第4条 前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

(1) 学生の修学、課外活動及び就職に対する支援事業

(2) 本学と保護者との連携に対する支援事業

(3) 本学の運営に対する支援事業

(4) 同窓会等に対する支援事業

(5) 会員相互の親交を図るための事業

(6) その他必要と認める事業

(支部)

第5条 本会には、必要に応じて支部等を置くことができる。

(会員の構成)

第6条 本会は、正会員及び賛助会員をもって構成する。

(正会員)

第7条 正会員は、次の各号のうち会費を納入した者及び本会の趣旨に賛同し寄附をした者とする。

(1) 本学の学生(保護者の場合を含む。)

(2) 本学の卒業生

(3) 本学の役員及び教職員(退職者を含む。)

(4) 前号に掲げる者以外の本学に関係する者

(賛助会員)

第8条 賛助会員は、次の各号に掲げる本学の各学部同窓会及び後援会とする。

(1) ふすま同窓会 (2) 地域教育文化学部同窓会 (3) 医学部蔵王会

(4) 医学部樹水会 (5) 社団法人米沢工業会 (6) 農学部鶴窓会

(7) 人文学部後援会 (8) 地域教育文化学部後援会 (9) 理学部後援会

(10) 医学部医学科後援会 (11) 医学部看護学科後援会 (12) 工学部後援会

(13) 農学部後援会

2 前号に掲げるもののほか、理事会が認める場合に限り、本学に関係する者が一定の目的の下で活動する団体を、賛助会員に加えることができる。

(会議)

第9条 本会に理事会を置く。

(理事会)

第10条 理事会は、毎年1回以上開催し、次に掲げる事項について審議する。

(1) 役員選出に関すること

(2) 事業計画に関すること

(3) 予算及び決算に関すること

(4) その他本会の目的達成のために必要なこと

(決議の方法)

第11条 理事会は、出席者の過半数をもって議決する。

(役員)

第12条 本会に次の役員を置く。

(1) 会長 1人

(2) 副会長 2人(理事との兼職)

(3) 理事 23人以内

(4) 監事 2人

2 理事及び監事の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

3 任期満了前に退任した理事及び監事の補欠の任期は、前任者の残任期間とする。

4 役員は無報酬とする。

第13条 役員の選任は、次のとおりとする。

(1) 会長は、本学の学長をもって充てる。

(2) 副会長は、理事のうちから、理事会の承認を経て、会長が指名する。

(3) 理事は、次の区分により選出する。

ア 本学の学生の保護者等 7人(各学部等後援会から1人)

イ 本学の役員及び教職員 8人(エンrollment・マネジメント担当理事1人、各学部教員から1人、事務職員1人)

ウ 本学の卒業生 6人(各学部等同窓会から1人)

エ 会長が推薦する者 若干人

(4) 監事は、本学の卒業生から1人及び本学退職者から1人を選出する。

(任務)

第14条 役員の任務は、次のとおりとする。

(1) 会長は、本会を代表し、会務一切を総括するとともに、理事会を招集して会議の議長となる。

(2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その代理を務める。

(3) 理事は、理事会を構成し、本会の事業運営に当たる。

(4) 監事は、本会会計を監査し、理事会に報告する。

(専門委員会)

第15条 校友会に関する専門の事項を審議するため、理事会に山形大学校友会専門委員会(以下「専門委員会」という。)を置く。

2 専門委員会に関する必要な事項は、別に定める。

(経費)

第16条 本会の経費は、会費及び寄附金その他の収入をもって運用する。

2 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(会費)

第17条 会費は、10,000円とし既納の会費は返還しない。

2 会費は、本学の学生(保護者の場合を含む。)においては入学手続きの際、その他の会員においては入会時納入するものとする。

3 賛助会員は、会費納入の義務はない。

(事務局)

第18条 本会に、その業務を処理するため、事務局を置く。

2 事務局は、本学エンrollment・マネジメント部内に置く。

(その他)

第19条 この会則に定めるもののほか、本会の運営に関する必要な事項は、理事会において定めることができる。

附 則

1 この会則は、平成18年12月6日から施行する。

2 平成18年3月31日に在学する学生の保護者に係る会費の納入は、第15条第2項の規定にかかわらず、当該学生が卒業及び修了する際に納入するものとする。

3 この会則の施行の際、会長の選出に当たっては、第10条第1号の規定にかかわらず、理事会の推薦に基づき選出するものとする。

(省 略)

附 則

この会則は、平成25年4月1日から施行する。

(ご注意)

- ・この用紙は、機械で処理しますので、本票を汚したり、折り曲げたりしないでください。
- ・この用紙は、ゆうちょ銀行又は郵便局の払込機能付ATMでもご利用いただけます。
- ・この払込書をゆうちょ銀行又は郵便局の渉外員にお預けになるときは、引換えに預り証等を必ずお受け取りください。
- ・ご依頼人様からご提出いただきました払込書に記載されたおところ、おなまえ等は、加入者様に通知されます。
- ・この受領証は、払込みの証拠となるものですから大切に保管してください。

この場所には、何も記載しないでください。

山形大学大学歌

作詞：石先 麻美・難波 千鶴
作曲：大谷 靖夫
編曲：中村 康就

山形大学大学歌は、平成21年に創立60周年を記念し、歌詞の募集を行い、当時地域教育文化学部4年在学中の石先麻美さんと難波千鶴さんの作品が選ばれました。作曲は山形市出身の作曲家大谷靖夫氏に依頼し、平成22年3月に本学大学歌として制定されました。



大学歌
ダウンロードは
こちら

大学のホームページからも
ダウンロードができます。

- 春風に 希望をのせて
桜の光 仰ぎ見る
若葉の緑 きらめいて
力みなぎる 若き瞳
決意を胸に 手をつなぐ
我らが学び舎 山形大学
- 知を深く 真理を求め
語りあかそう 集い来て
星のまたたき 想い馳せ
学びを拓く 強き瞳
己を信じ 進みゆく
我らが学び舎 山形大学
- はるかなる 未来を照らし
流れる川の 絶え間なく
日々を彩る 雪模様
次代を担う 明き瞳
夢を抱いて はばたこう
我らが学び舎 山形大学



山形大学校友会では、事業の一環として、大学のイメージアップと4キャンパス一体感の醸成を目的として大学歌の普及活動に対しての支援を行っています。

新入生保護者の皆さまと山形大学との交流会

平成25年6月29日(土)に、小白川キャンパスにおいて「平成25年度新入生保護者の皆さまとの交流会」を開催しました。この交流会は、保護者の皆さま相互、また、保護者の皆さまと教職員とが親睦や交流を深めるとともに、大学運営の実情や本学の研究等についてご理解いただくために開催しているもので、5回目となる今回は校友会支援事業として、全国各地から約240名の方々にご参加いただきました。

地域教育文化学部音楽芸術コースの学生による「大学歌」の演奏に始まり、結城章夫学長のあいさつの後、渡邊洋一基盤教育院長(人

文学部教授)による講演「『一年次の基盤教育』について」、新入生5名による授業紹介「『実践的キャリア教育学』での挑戦」、栗原正人理学部教授による講演が行われました。

いただいたアンケートでは、「山形大学独自の基盤教育のあり方、考え方がよくわかった」等の声が寄せられ、学生による発表も好評で、保護者の皆さまの関心度の高さが感じられました。



山形大学エンrollment・マネジメント部

〒990-8560 山形市小白川町1丁目4-12

山形大学校友会事務局

TEL: 023(628)4867 FAX: 023(628)4185

E-mail: ykouyu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

〈校友会ホームページ〉 <http://www.yamagata-u.ac.jp/ykouyu/>

02 仙台		払込取扱票										通常払込料金加入者負担			
口座記号番号		金額										金額			
022007		89697										10000			
加入者名		山形大学校友会										備考			
※ 該当するところを☑の上、必要事項をご記入ください。		納入内訳										10,000円			
☐ 山形大学在学学生・卒業生・修了生等 昭和・平成 年 入学・卒業・修了 学部、大学院名 ☐ 趣旨にご賛同いただいた個人 ☐ 山形大学退職者 部局等名： (自由記載欄)		☐ 山形大学役員及び教職員 部局等名：													
おとこ(平)		日										様			
おなまえ		附										印			
(ご連絡先電話番号)															

裏面の注意事項をお読みください。(ゆうちょ銀行) (承認番号仙 第9785号)
これより下部には何も記入しないでください。

振替払込請求書兼受領証

02 仙台		払込取扱票										通常払込料金加入者負担			
口座記号番号		金額										金額			
022007		89697										10000			
加入者名		山形大学校友会										備考			
おなまえ		日										様			
ご依頼人		附										印			
料金															
備考															

この受領証は、大切に保管してください。